

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年10月15日（月）～平成30年10月21日（日）〔平成30年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週（3.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.11人と前週（2.89人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.65人と前週（1.86人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

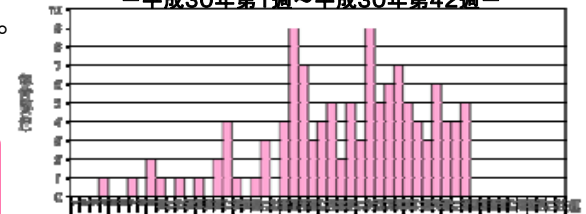


## 家族内での感染に注意しましょう！！～百日咳～

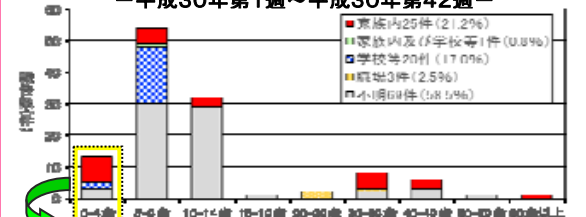
百日咳は、百日咳菌を主な原因菌とする急性の気道感染症で、特有の発作性の咳を引き起こします。

現在、百日咳の報告数が全国的に増加しており、川崎市においても第42週（平成30年10月15日～10月21日）までに118件の報告がありました。特に15歳未満の小児の報告が多く、推定感染経路は不明であることが多いものの、家族内感染が全体の21.2%を占めていました。百日咳含有ワクチンは生後3か月から接種可能ですが、接種前の乳児が感染すると重症化し、死亡することもあります。小さなお子さんがある家庭では大人も含めて咳等の症状には注意が必要です。

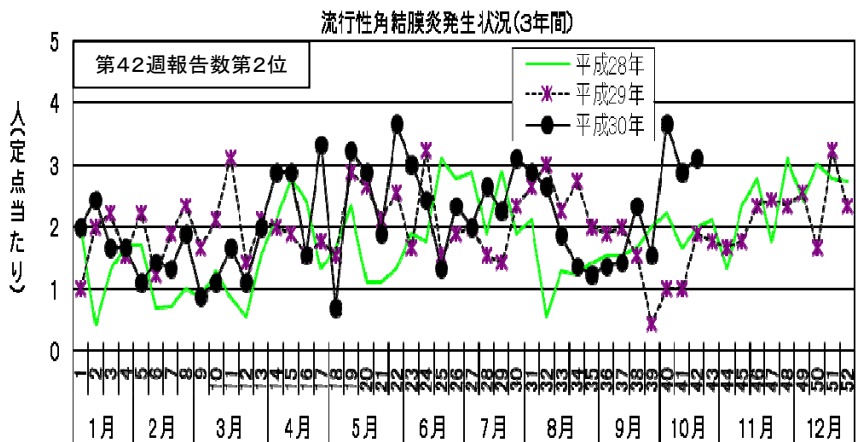
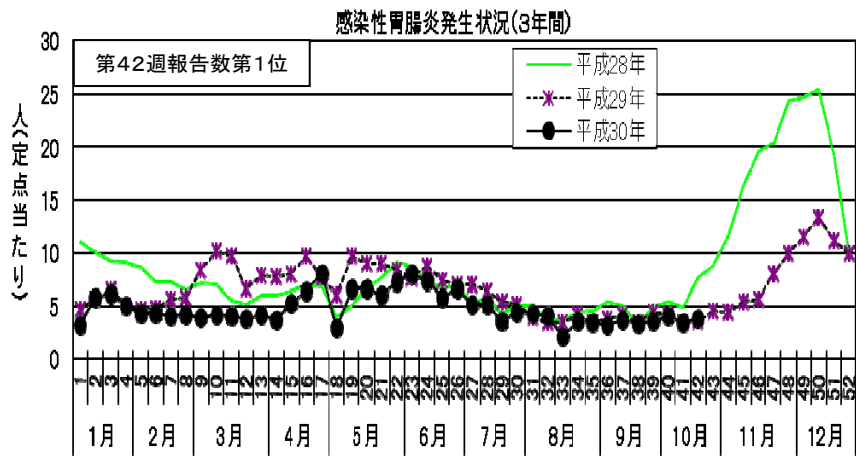
川崎市における百日咳発生状況  
—平成30年第1週～平成30年第42週—



川崎市における百日咳推定感染経路別・年齢階級別発生状況  
—平成30年第1週～平成30年第42週—



・0～4歳のうち、6か月未満児の報告が5件ありました。  
 ・5件中3件は入院加療となり、そのうち1件は肺炎の報告がありました。



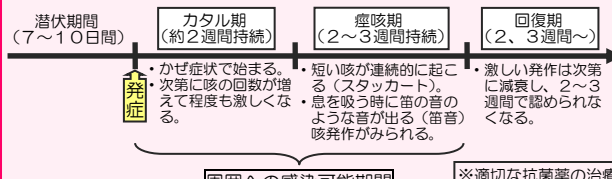
### 百日咳とは？

#### 【潜伏期間】

おおむね7～10日間

#### 【症状】

臨床経過により3期に分けられます。



#### 【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（DPT-IPV等）